

宇宙空間平和利用委員会  
法律小委員会 第11回会期

1. 日時 1972年4月10日 ~ 5月5日

2. 場所 シェネーブ

3. 出席予定者

在シェネーブ日本大使館員, 在ニールン国連日本代表部員, 科学技術庁園山企画課長, 宇宙開発事業団清水文書課長代理

4. 議題

(1) 議長のスートメット

(2) 宇宙の探査および平和利用のため宇宙空間に発射される物体の登録に関する事項

(3) 月に関する諸問題

(4) その他

(a) 宇宙通信関係諸問題 — 直接放送紀要作業グループ報告書

(b) 宇宙空間および宇宙活動の定義、限界決定等に関する事項

(c) 地球資源のリモートセンシング紀要による探査を通じて行われる諸活動に関する事項

# 輸送国に打ち上げられた物体の登録に関する協定案 (要約) (カ+7.1)

本協定への加盟国は、

- 宇宙における活動に要する各国の国際的責任が、月その他の天体を含む宇宙空間の探索および利用における国家活動を律する原則に関する条約（宇宙条約）により確認されていることを想起し、
- 宇宙飛行士の救助、宇宙飛行士の返還および宇宙空間に打ち上げられた物体の返還に関する協定に、宇宙物体の返還に基いての識別方法を提議（おとり・当局に対し）するよう規定していることを想起し、
- さらに宇宙物体に起因する国際的な損害賠償協定が、おとり国の損害賠償責任を確認していることを想起し、
- 現行の協定および宇宙法の一般原則が、宇宙活動の効果的な規制を促進するため、また識別のための法的な結果をとり扱うために、宇宙物体の識別に対する基本的要請を暗示していることを考慮し、
- 1961年12月20日付決議1721B (XVI) に従って事務総長により維持されている公共登録の有用性にもかかわらず、より総合的な国際システムが必要とされていることを信じ、

以下のとおり合意した。

## 第一条

この協定の目的のために

(A) おとり国とは、

(B) 宇宙物体を打ち上げ、または、意図的に参加した国。

(Ⅱ) 予知士は施設から宇宙物体が打上げられた国を意味する。

(Ⅲ) 宇宙物体には宇宙物体の構成部分、さらに打上げロケットの残りの部分が含まれる。

オ=条

1. 打上け国は、事務総長に対し、打上げられる宇宙物体に関する下記の初期情報を提供するものとする。

(A) 打上け国 (オ=条(A)に記されている全ての国を含む)

(B) 打上けの期日、時間および正確な位置

(C) 一般的功能

(D) 質量、形状、寸法および外部構成部品等の外部仕様書

(E) 識別可能なマーキングの位置および描写

(F) 再突入に耐え得る材料の描写と構成

(G) 遷移および軌道の描写

(H) 機動性

(I) 予想される運用モード

(J) 予想される寿命

(K) 予想される消滅または再突入の期日、再突入の軌跡および着陸地

(L) 全7の目的のために使用される無線周波数、および

(M) 打上け国が、当該宇宙物体の識別にとって有用と考えるその他の類似情報

2. 初期情報が提供された後も、打上け国は事務総長に対し、前節に従って提供された情報の変更を含めて当該宇宙物体の識別の一助となるようなその時点の当該宇宙物体に関する情報を提供するものとする。

3. この宇宙物体に関しても、オ=条の(A)に規定されるように、1つ以上

の打上げ国がある場合には、関係打上げ国は、その中から前掲の諸節に従って事務総長に情報を提供する国を指定することとする。

### オ3条

1. 当事国は、事務総長の要求に応じて、事務総長に対し、当該宇宙物体の識別に関連して、その国が所有している情報を提供するものとする。事務総長は、その当事国が、彼に対し、国際法の下で権利を行使し、責務を果たすという目的のために宇宙物体を識別する際の助けとするためには、このような情報が必要であるということも通報した場合であっても、このような要求を行なうこととする。

2. 発達した宇宙モビリティ・プラットフォームの能力を有する国は、可能な場合はいつでも、事務総長に対し、宇宙物体に関する「軌道上の」モビリティ・プラットフォーム減衰軌道および再突入の時期・場所の予報を提供することに合意する。

### オ4条

1. 事務総長は、オ2条およびオ3条に従って提供される情報への迅速な接近を促進するために、このような情報が継続的かつ順次的に記録される中央登録機を運営することとする。

2. 事務総長は、オ2条およびオ3条に従って情報が提供される各宇宙物体に対し、登録番号を割り当てることとする。

3. 中央登録機内の情報は、当事国にとって十分接近可能とし、要請があれば、他の国にとって入手可能とするようにする。

## 第5条

1. 締約国は、国際規準に従って、現は、そのようなものがその場合は、当該物体が、可能な限り確実にかつ迅速に識別できるように、最善の可能な保証を提供する方法で、各宇宙物体にマーキングを付することとする。
2. 各国は、宇宙空間平和利用委員会との緊密な連絡の下に、科学技術の進歩に照らして、前節の目的を促進べく、マーキングに関し、合意した国際規準を設けるために協力することに同意する。

## 第6条

1. 本協定において第 1 章から 第 4 章を除き、国としての扱いは、もしこの機関が、本協定に規定されている権利および義務の受託を宣示し、かつもし、この機関の加盟国の大部分が、本協定および月その他の天体を含む宇宙空間の探索及び利用における国家活動を律する原則に準ずる条約の当時国であるとする、宇宙活動を遂行している国際的な政府機関機構に對しても適用せらるゝとみなせらるゝものとする。
2. 本協定の当事国で、このような機関の加盟国は、前節に従って当該機関が宣言を行なうことを確保するため、あらゆる適切な措置をとることとする。

宇宙空間平和利用委員会 科学技術小委員会第9回会期

1. 日時 昭和47年5月3日～5月12日

2. 場所 ニューヨーク

3. 出席予定者 未定

4. 議題

(1) 議長のスートメント

(2) 国別報告: 各国の説明

(3) 宇宙技術応用に因する国連活動の現状

(a) 10年

(b) 各国報告

(c) フェローシップ

(4) 宇宙技術応用の促進

A. 通信記録

① 宇宙通信に関する世界無線主管会議(1971年)の報告に基づく関連事項 — ITUの報告

② 教育と訓練用の記録放送 — UNESCOとITUの報告

B. 航行記録の現状 — IMCOとICAOの報告

C. WWW計画およびGARP計画の現状 — WMOの報告

D. 環境問題に適用され得る場合の宇宙技術 — COSPARの報告

E. 宇宙空間の有人実験室

F. 記録による地球のリモートセンシング

① 国連作業グループの進捗状況報告

② FAOの報告

(5) 国際協力の科学技術的側面に関する考慮

A. 情報交換

B. 教育と訓練

C. 国際観測ロケット施設

(6) 本小委員会の第9回会期報告書(A/AC.105/95)の第24

パラグラフの(b)に盛り込まれた本小委員会の要求に応える事務

経費の報告

(7) 本小委員会の第9回会期に関する宇宙空間平和利用

委員会への報告書

宇宙空間平和利用委員会 科学技術小委員会第9回会期

1. 日時 昭和47年5月3日～5月12日

2. 場所 ニューヨーク

3. 出席予定者 未定

4. 議題

(1) 議長のステートメント

(2) 国別報告: 各国の説明

(3) 宇宙技術応用に関する国連活動の現状

(a) ノール

(b) 各国訪問

(c) フェローシップ

(4) 宇宙技術応用の促進

A. 通信紀要

① 宇宙通信に関する世界無線主管者会議 (1971年) の報告に基づく関連事項 — ITUの報告

② 教育と訓練用の紀要放送 — UNESCOとITUの報告

B. 航行紀要の現状 — IMCOとICAOの報告

C. WWW計画およびGARP計画の現状 — WMOの報告

D. 環境問題に適用された場合の宇宙技術 — COSPARの報告

E. 宇宙空間の有人実験室

F. 紀要による地球のリモートセンシング

① 国連作業グループの進捗状況報告

② FAOの報告

(5) 国際協力の科学技術的側面に関する考慮

A. 情報交換

B. 教育と訓練

C. 国際観測ロケット施設

(6) 本小委員会の前回会期報告書 (A/AC.105/95) の第24

パラグラフの(b)に盛り込まれた本小委員会の要求に応える事務終了の報告

(7) 本小委員会の第9回会期に関する宇宙空間平和利用委員会への報告書